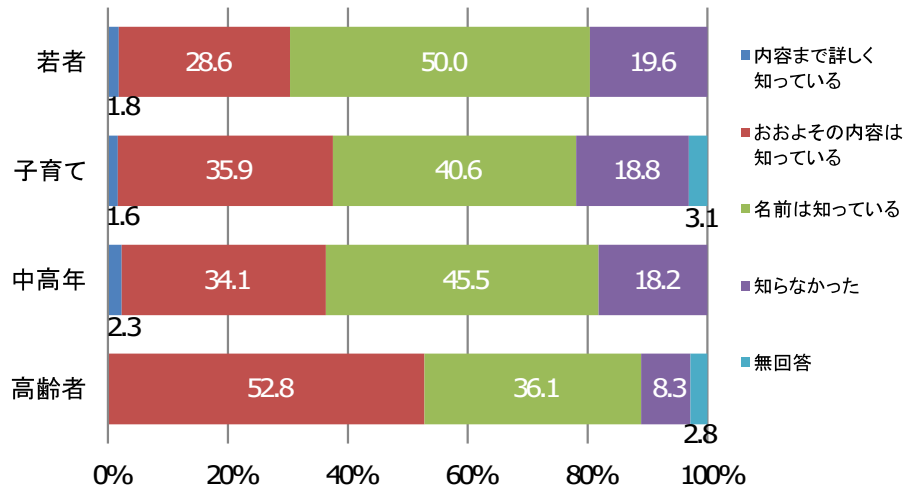
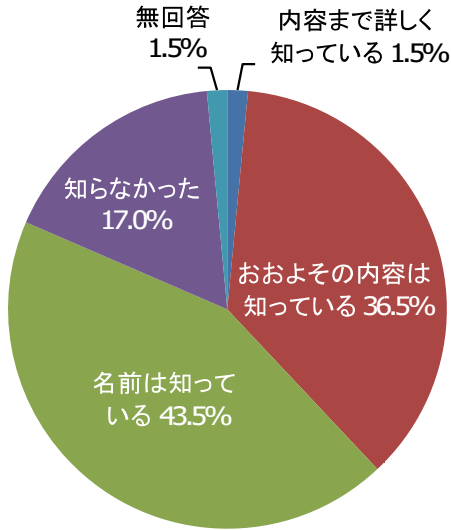


<地球温暖化対策について>

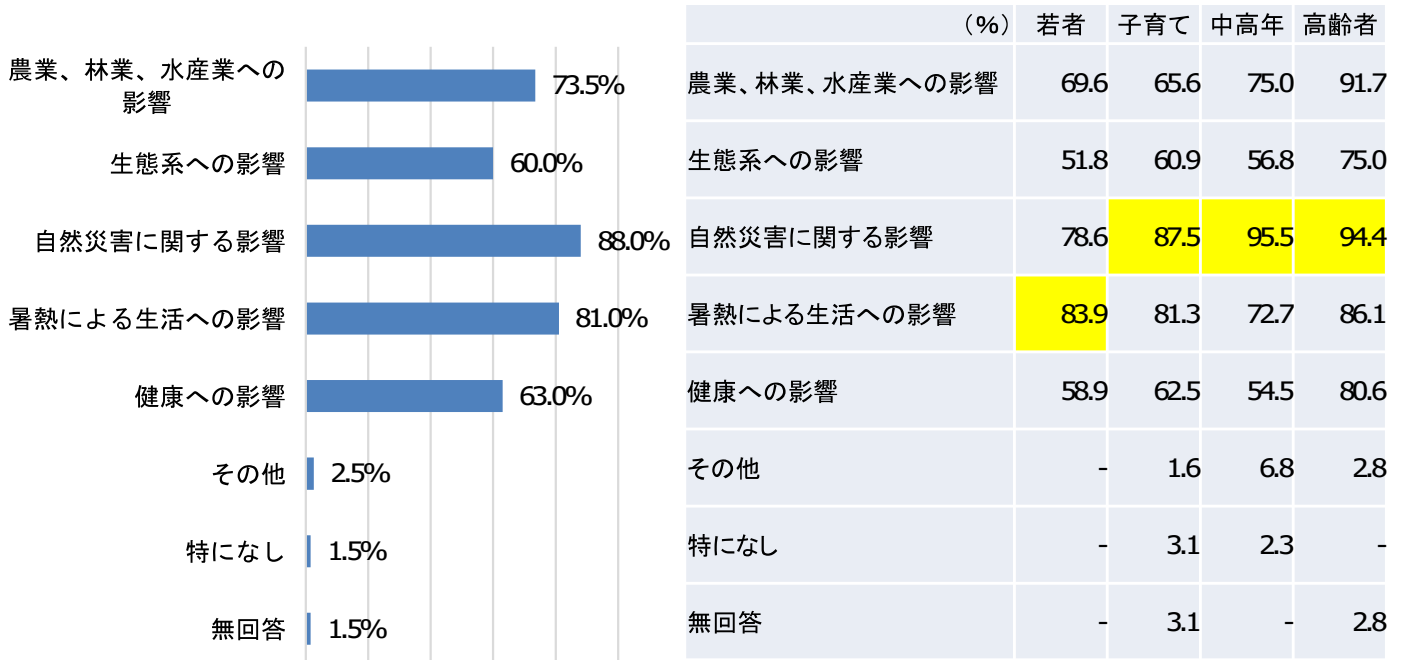
■ 問1 「2050年カーボンニュートラル※」宣言の認知度 (n=200)

※ カーボンニュートラルとは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの人為的な「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。2020年10月、政府は2050年までにカーボンニュートラルを目指すことを宣言した。



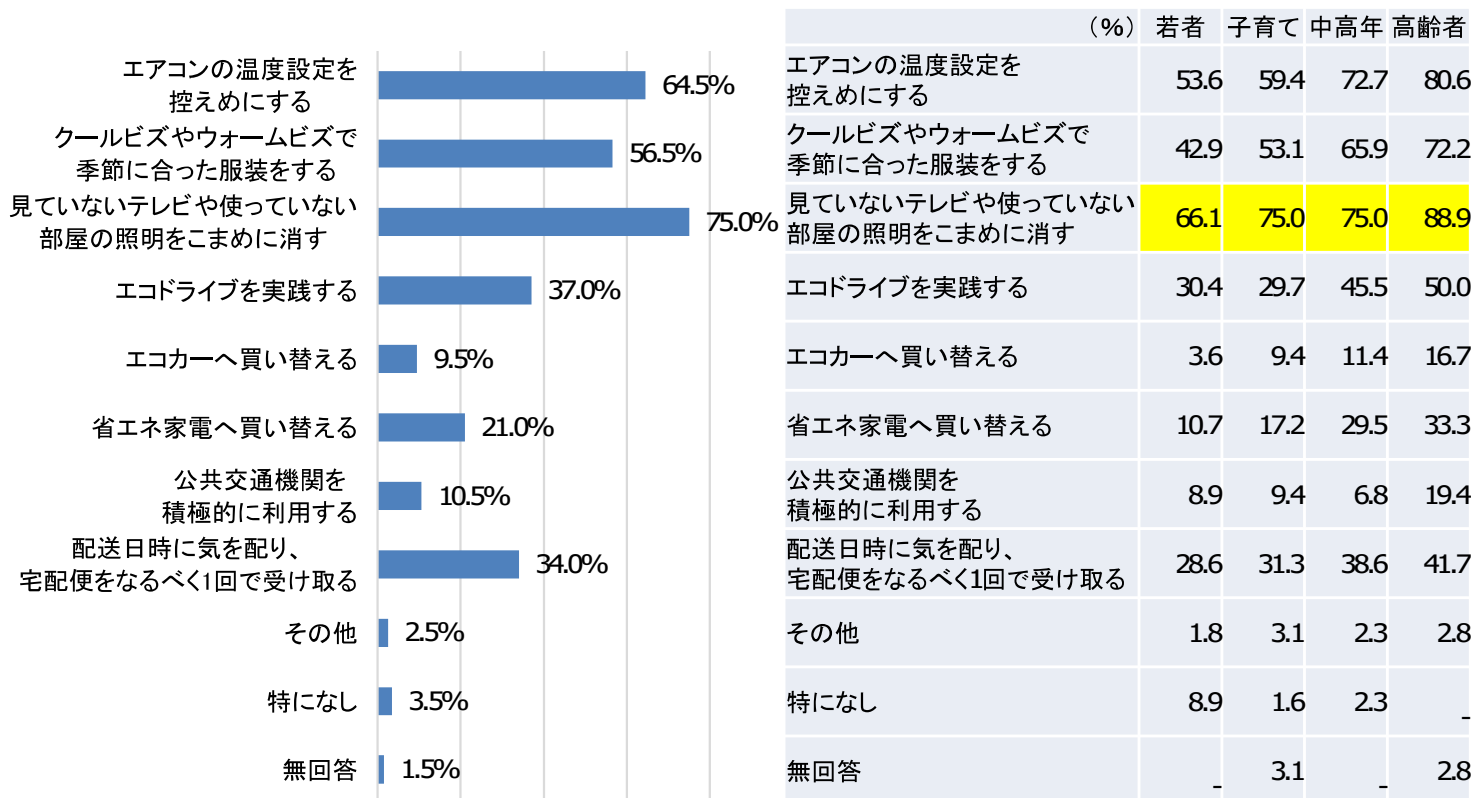
- 「2050年カーボンニュートラル」宣言の認知度については、『知っている』（「内容まで詳しく知っている」、「おおよその内容は知っている」と「名前を知っている」の合計）が8割となっています。
- 世代別にみると、若者・子育て・中高年の約8割、高齢者の約9割が『知っている』と回答しています。

■ 問2 地球温暖化による影響で心配なこと (n=200 複数回答)



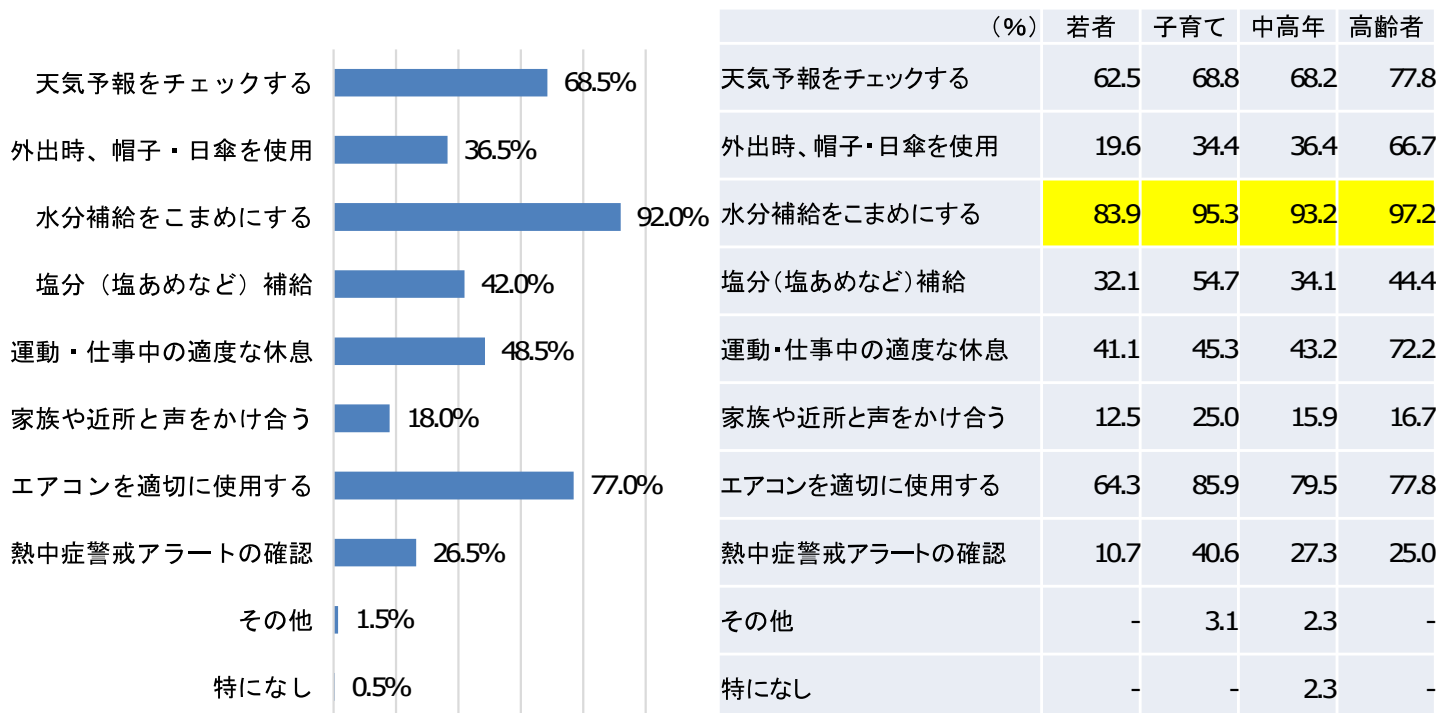
- 地球温暖化による影響で心配なことについては、「自然災害に関する影響」が約9割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者では「暑熱による生活への影響」が、子育て・中高年・高齢者では「自然災害に関する影響」が最も多い回答となっています。

問3 日ごろ実践している温暖化対策 (n=200 複数回答)



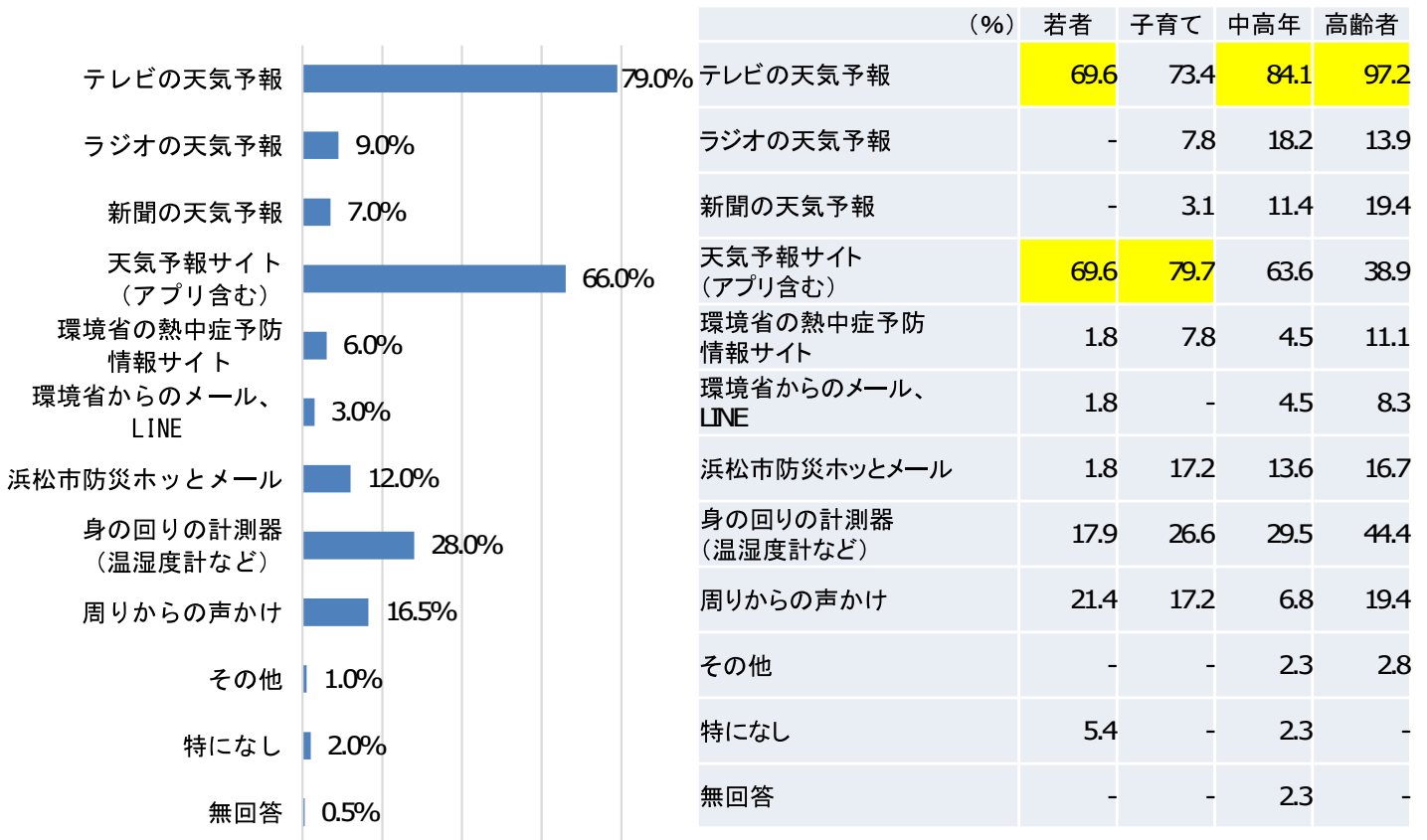
- 日ごろ実践している温暖化対策については、「見ていないテレビや使っていない部屋の照明をこまめに消す」が約8割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「見ていないテレビや使っていない部屋の照明をこまめに消す」が最も多い回答となっています。

問4 熱中症予防として実施していること (n=200 複数回答)



- 熱中症予防として実施していることについては、「水分補給をこまめにする」が約9割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「水分補給をこまめにする」が最も多い回答となっています。

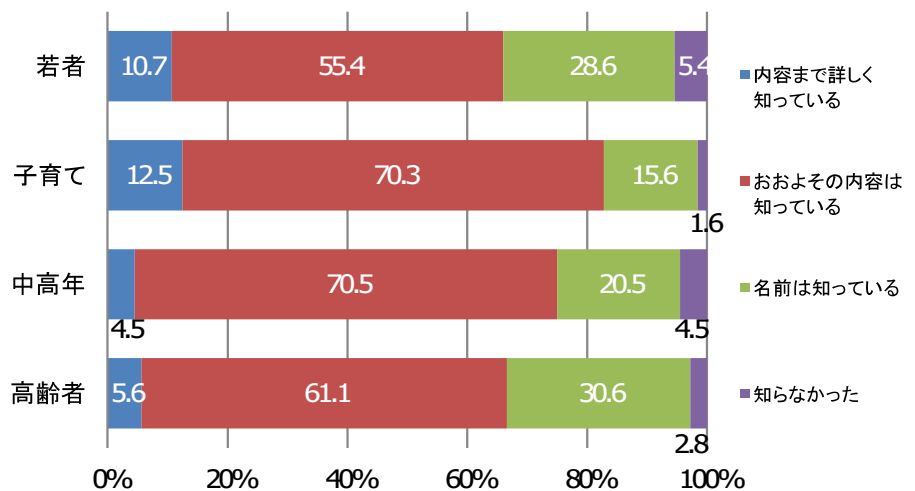
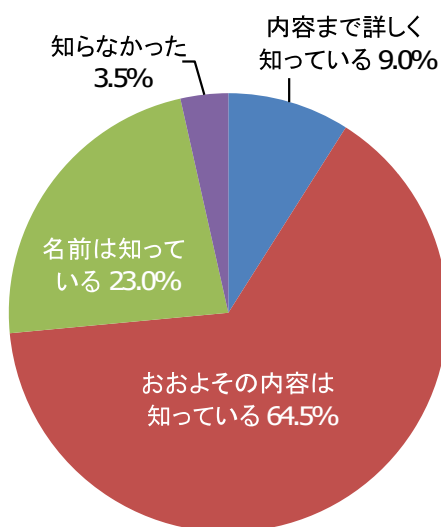
問5 熱中症の危険度を判断するための情報 (n=200 複数回答)



- 熱中症の危険度を判断するための情報については、「テレビの天気予報」が約8割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・子育てでは「天気予報サイト(アプリ含む)」が、中高年・高齢者では「テレビの天気予報」が最も多い回答となっています(若者では「テレビの天気予報」も同率)。

問6 「熱中症警戒アラート」※の認知度 (n=200)

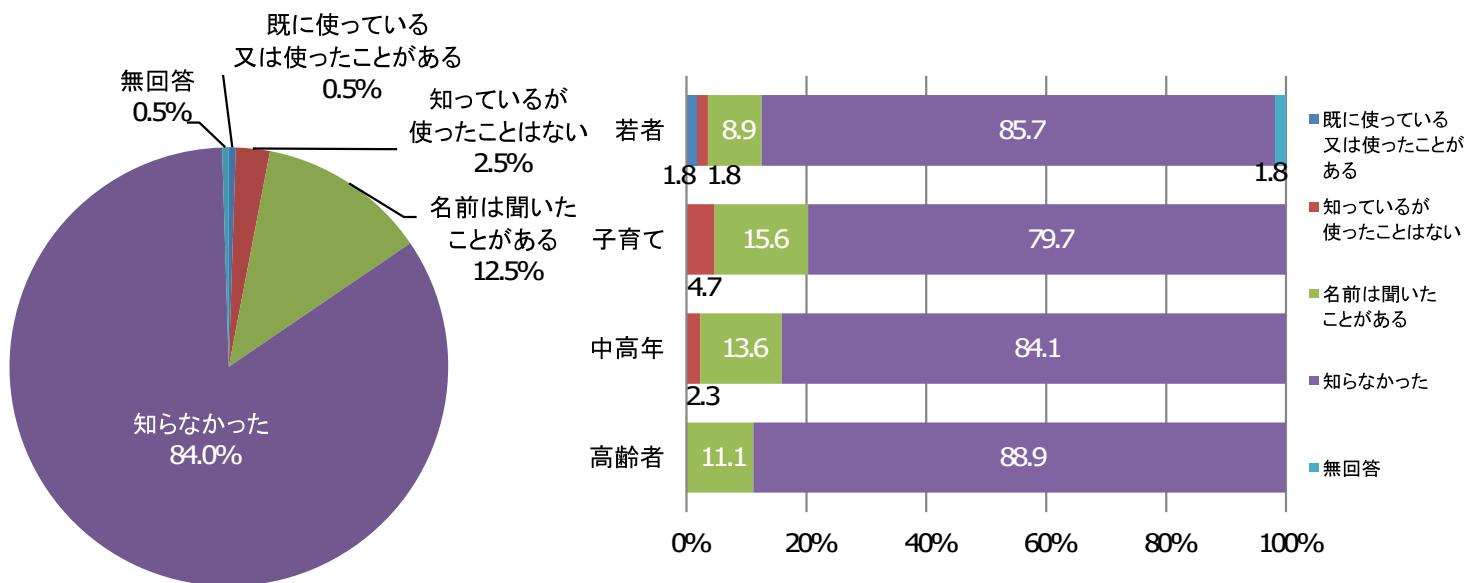
※ 熱中症警戒アラート: 気象庁と環境省から発表される、暑さ指数(WBGT)を用いた熱中症への警戒を呼び掛けるお知らせ。



- 熱中症警戒アラートの認知度については、『知っている』(「内容まで詳しく知っている」、「おおよその内容は知っている」と「名前を知っている」の合計)が約10割となっています。
- 世代別にみると、若者の約9割、子育て・中高年・高齢者の約10割が『知っている』と回答しています。

問7 アプリ「クルポ」※の認知度 (n=200)

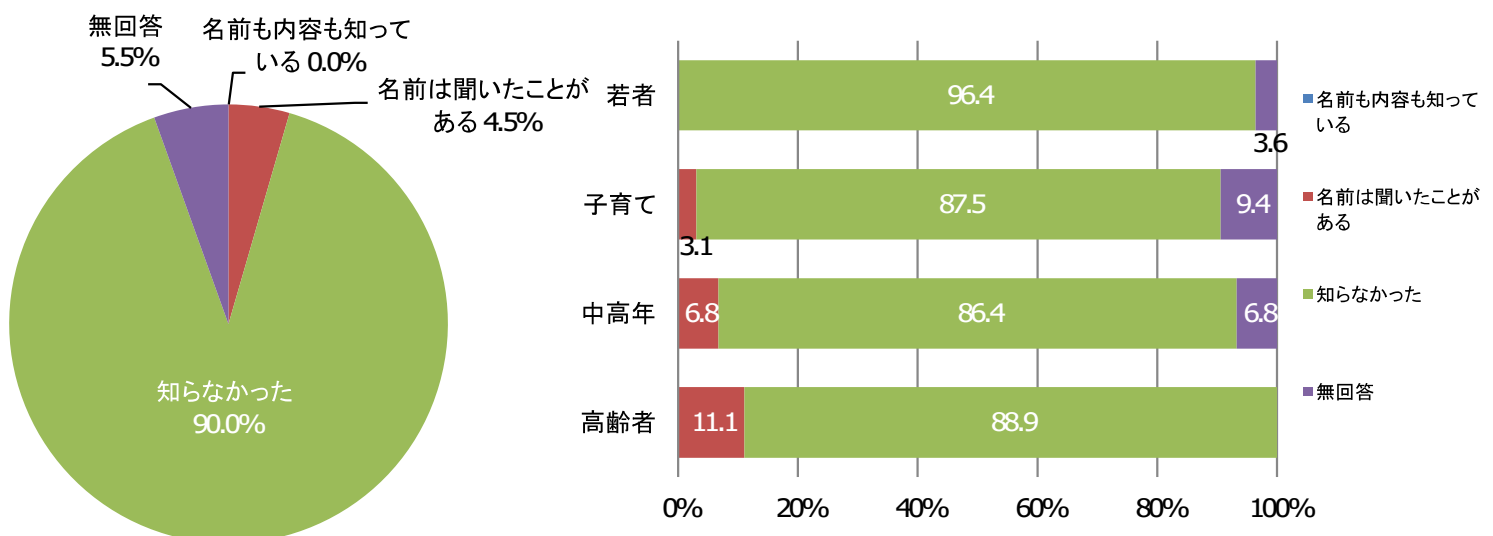
※ クルポ：静岡県が地球温暖化防止のための県民運動の一環として配信している無料アプリ。脱炭素アクション（環境に配慮した行動）をすることでポイントを獲得でき、貯めたポイントで県内企業の商品券や食事券、図書カードなどが当たる抽選に参加できる。



- アプリ「クルポ」の認知度については、『知っている』（「既に使っている又は使ったことがある」、「知っているが使ったことはない」と「名前を聞いたことがある」の合計）が約2割となっています。
- 世代別にみると、若者・高齢者の約1割、子育て・中高年の約2割が『知っている』と回答しています。

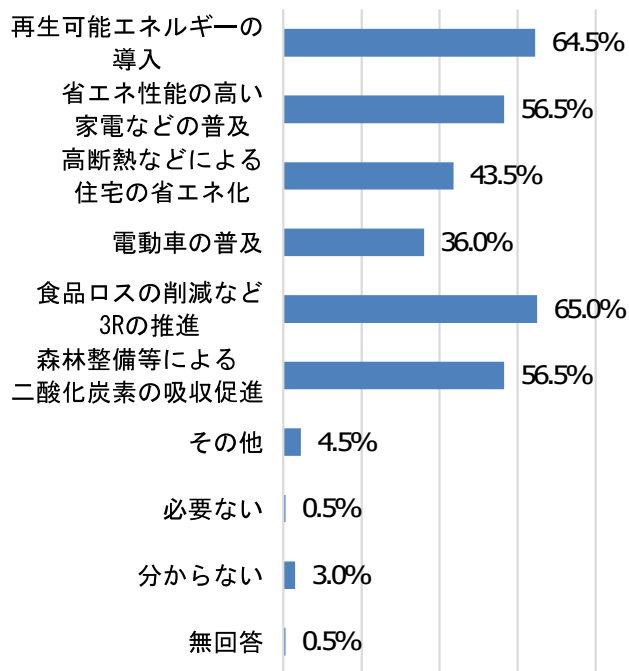
問8 国民運動「デコ活」※の認知度 (n=200)

※ デコ活：脱炭素化の実現に向け、暮らし・ライフスタイルの分野でのCO₂削減を進めるため、国民・消費者の新しい暮らしを後押しする国民運動のこと。国、自治体、企業、消費者等が主体となり、新しい暮らしを支える製品、サービス、取組などの情報を様々な媒体から発信、PRする。



- 国民運動「デコ活」の認知度については、『知っている』（「名前も内容も知っている」と「名前を聞いたことがある」の合計）が1割未満となっています。
- 世代別にみると、世代が高くなるにつれて『知っている』の回答割合が高くなっています。

■問9 地球温暖化防止のために必要だと思う政策 (n=200 複数回答)



(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
再生可能エネルギーの導入	58.9	65.6	63.6	72.2
省エネ性能の高い家電などの普及	48.2	56.3	45.5	83.3
高断熱などによる住宅の省エネ化	25.0	45.3	45.5	66.7
電動車の普及	23.2	37.5	31.8	58.3
食品ロスの削減など3Rの推進	55.4	65.6	63.6	80.6
森林整備等による二酸化炭素の吸収促進	50.0	51.6	59.1	72.2
その他	3.6	3.1	4.5	8.3
必要ない	-	-	2.3	-
分からない	5.4	3.1	2.3	-
無回答	-	1.6	-	-

- 地球温暖化防止のために必要だと思う政策については、「食品ロスの削減など3Rの推進」が約7割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者では「再生可能エネルギーの導入」が、子育て・中高年では「食品ロスの削減など3Rの推進」が、高齢者では「省エネ性能の高い家電などの普及」が最も多い回答となっています(子育て・中高年では「再生可能エネルギーの導入」も同率)。